

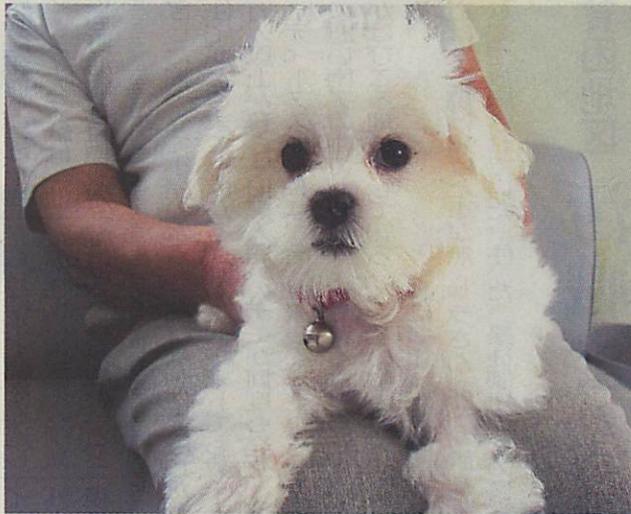
動物の診察室から

○ 35 ○

この夏のある日、その日は気温もかなり高い、真夏日でした。マルチーズが抱かれていたのでズの子キティちゃんはお父さんと一緒に車で出掛けました。

お父さんは少しの間だけ、車の窓を細く開けて、キティちゃんを車の中に置いていったのですが、戻ってみると、キティちゃん

その子の名前は「健太



退院後の健診にきた健太君

門脈シャント

ちゃんはぐったりとしました。

キティちゃんは、熱射病で腸からの出血が始まっており、翌日の明け方息を引き取りました。お父さんはキティちゃんを抱きながら「俺がわるいんだ、ごめん」と何度も何度も声を掛けていました。

それから1カ月くらいして、お父さんが病院へおいでになりました。そ

血管結ぶ手術で健康に

ます。そして腸管で発生したアンモニアは肝臓で無毒化されて静脈へ流れるのですが、門脈シャントは、本来肝臓へいく門脈から、直接静脈へ入っていく枝分かれた血管が先天的にあるため、アンモニアが体を流れて、食後元気がなくなったり、嘔吐や下痢を起こしたり、重症になるとふらつきたり、痙攣発作などの神経症状

君、とても小さな男の子です。その日の健康診断では特に異常はなく、お父さんは、大きな体になんか抱いて帰ることにしました。しかし、3日後、嘔吐が数回あり、食欲も元気も急になくなりました。夕方には元気になったので門脈となつて肝臓に入り

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

